

テーマ 未来を築く「こどもたち」に伝えたい建設産業の魅力

タイトル 未経験から飛び込んだ建設業界で得た「誇り」

会社名 株式会社加賀田組

氏名 建守 千都

建設業界に飛び込んで約1年、振り返ってみるとあっという間の1年間だったなど感じている。私は大学までひたすらスポーツに明け暮れる生活で、「建設業」に興味を持ったことも触れたこともなかった。そんな私が「建設業」に興味を持つきっかけとなったのは、大学3年の冬に就職活動を本格的に始めたころだった。

就職活動を始めた当時、やってみたい業種は特になく、どんな業種が自分に向いているのだろうかと悩んでいた。そんな時に参加した大学開催の企業説明会で建設業という業界を知った。

最初は出身と同じ新潟県の企業だからという何気ない理由で現在入社している企業のベースに立ち寄ったのだが、説明を受けている中で「まちづくり」という単語になぜか惹かれ、建設業について興味を持ち始めた。

なぜ「建設業」という業界に惹かれたのか。それは大学まで続けてきた「スポーツ」と共通点があったからである。私がスポーツを経験して一番嬉しかった瞬間は、優秀な成績で入賞したときはもちろんだが、それと同じくらい自分の成績で誰かが喜んでくれるときも嬉しく感じていた。将来働く職業でも、誰かを笑顔にでき、社会に貢献できることが理想と考えながら就活をしていた私にとって、建設業界はとても魅力的に感じたため、現在の会社に入社することを決めた。

そんな建設業に関して知識も経験もまだまだ浅い私が、この1年間で感じた建設業の役割や魅力を紹介しようと思う。

建設業は単に「モノ」を構築するだけでなく、人々の生活基盤を形成し、社会の発展に寄与する重要な産業であり、私たちの生活になくてはならないインフラの整備を通じて、社会全体を支える極めて高い公共性を担っている。さらに、建設業は単なる現状維持に留まらず、新たな技術を積極的に取り入れ、より持続可能で利便性の高い都市空間を創造することで、未来の社会の姿を具体的に形成する役割も果たしている。

このように「社会を支え、未来を形成する貢献性」が、建設業の1番の魅力なのではないかと私は感じている。また、私は現在営業部に所属しており、主に官庁営業を担当している。案件の申請・入札・開札といった、工事を受注するまでが営業の仕事と思われるかもしれないが、受注後も施工部の方々とコミュニケーションを取り、近隣住民の皆さんにご理解・ご協力をいただきながら、「よりよいモノづくり」のためにワンチームで日々尽力している。こうしたプロセスを経て完成した「モノ」は、その後長きにわたり地域社会に存在し続け、多くの人々に利用され、愛されていく。さらに、その「モノ」を利用した

人々の笑顔や感謝を目にするとたびに、この仕事のもつ大きな価値を実感することができる。

建設業は、単に「モノ」を作るだけでなく、人々の暮らしに寄り添い、記憶に残る「場」を創造する仕事ということに私は「誇り」をもっており、これも建設業の魅力のひとつなのではないかと感じている。

私は約1年前、建設業界に飛び込んでから様々な「建設業の魅力」を体感・経験した。正直なところ、現在の会社に入社する前は、全く分からぬ業界に飛び込むことに対してとても不安に感じていたし、大学まで続けたスポーツの魅力を超えてくるような職業は無いのではないかと感じていた。しかし「建設業はツラくて大変だ」というイメージを払拭するくらい、大きな達成感と社会貢献の喜び、そして自己成長の機会に満ちた、とても魅力的な業界であると今は感じている。

現在、建設業界では働き手の高齢化や人材不足が問題になっている中、建設業の需要は年々増加傾向にある。そのような中、大切なのは「もっと多くの人々が建設業界に飛び込んできてもらうこと」だと私は感じている。入社するまで建設業に触れたこともなく、予備知識もないまま飛び込んだ私でもすごく魅力的に感じている「建設業」は、きっと皆さんにとっても魅力的な業界である。これから未来を築くこどもたちや、未だ建設業の魅力に気づいていない若手の方々がこの作文を読んで、建設業界に飛び込むきっかけになればと願っている。